



立憲民主党
福田昭夫衆議院議員



支える会

発行責任者
袖木麻子

大田区羽田3-3-15
デラモタワー202
TEL.03 (6423) 7878

メール
sasaerukai@emo
n.piaja.or.jp

9月24日衆議院第2議員会館において、JALの解雇争議を学ぶ「院内勉強会」が争議団の主催により開催され、議員11名、秘書28名、マスコミ・争議団で総勢56名と多くの方々の参加で成功裡に終わりました。

冒頭、勉強会の実施にご尽力いただいた国土交通委員の福田昭夫衆議院議員(立憲民主党)の開会挨拶の後、内田・山口両団長からJAL争議の経過と現状の説明を行い、その後、出席議員から質問や意見をいただきました。

「政治としてJALにどうアプローチしていけば、

【福田議員挨拶要旨】

JALは経営状態も戻り、強制解雇した人の数倍の新規採用をしている。とんでもないこと。皆さんを再雇用することは財務的にも可能だ。赤坂社長が解決したいと言いつつ、金銭の解決策はないと

適切に対応してもらえないのか、みなさんと議論を深め、できることをしていきたい」(自民党山本ともひろ衆議院議員)。「政府や行政の公的な立場の人は、労使交渉を見守るとか指導する等の原則があるが、この整理解雇を引き起こした当事者として、政府はキチンとした監督責任と結果責任を負うべきだと思う」(立憲民主・経営の破綻責任は誰にあるのか。安全第一に懸念に働く労働者に責任はない。争議を解決するのは経営の責任である)。(共産党穀田恵二衆議院議員)。「この解雇は不当労働行為であり、組合に対する弾圧であり、その人達を排除しながら、採用し続けている。とんでもない、日本の組合運動の中でも、私たちが国会の中でも、解決しなければならぬ課題だ」(社民党福島瑞穂参議院議員)。

などの意見交換が活発に行

◇ われました。初めての取り組みで、1時間の短い時間ででしたが、JAL争議解決に向けた意見、アドバイスなどをいただき、充実した内容となりました。



【出席議員】

自由民主党 山本ともひろ衆議院議員、
立憲民主党 福田昭夫衆議院議員、矢上雅義衆議院議員、真山勇一参議院議員
社民党 福島瑞穂参議院議員
共産党 穀田恵二衆議院議員、笠井亮衆議院議員、宮本徹衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、畑野君枝衆議院議員、山添拓参議院議員

ほかに、沖縄の風、無所属の議員の秘書の方にもご出席いただきました。

尚、勉強会についてはYouTubeや各議員のツイッターで見ることができます。是非ご覧ください。

<https://youtu.be/14uDIWRW5tc>



<各地の取り組み>



今年の夏は本当に暑かったですね。その暑さがピークに達した8月半ばは、17日〜20日に、7年ぶりの四国キャラバンを、1日1県4日間で行くというハードな日程で行いました。新型コロナウイルス感染拡散防止のためスタンディング、テープ街宣を中心として、各県で工夫をこらした宣伝行動、労働局要請、学習会を実施し、交流会は残念ながら無しとしました。

徳島では37・6度を記録。アスファルトの熱で靴底が溶けそうになりながら、その後、香川、高知、愛媛でも気温は常に35度を超え、腕と足の甲は真っ黒に。それほど過酷な4日間でした。関わって下さった皆様に感謝です。

今回はJALの問題だけではなく、全国一律最低賃金1500円実現に取り組み団体とコラボしたことで、多くの方々の協力、支持を得ることができ、35の賛同団体、延べ参加人数は200名を超えました。そして、私達自身もいろいろ学ぶことができました。オーストラリアでは学生の家庭教師のアルバイトでも自給1500円なのに、日本は一番高い東京で1013円、一番低い高知では792円です。1時間200円違うだけで生涯賃金に約2000万円の差が出るそうです。最低賃金1500円は決して贅沢な要求ではないことがわかります。長引くコロナ禍により、解雇問題がより身近なものとなっている今こそ、私達が職場に戻ることに全ての労働者に勇気を与えてほしい。

また、解雇自由な世の中にしてはいけません。そのためには声をあげ、行動することが大事です。一人でも多くの方がそのことに気づき、一緒に頑張っていけたら、きっと日本の社会は変わっていくと確信した夏でした。



<キャラバン日記>

2020.08.17 徳島市内 四国キャラバン初日の様子です。

四国の支援者の方々が「JAL不当解雇撤回と最低賃金1500円の実現を求める実行委員会」を立ち上げて下さり、最賃1500円とコラボで、この酷暑の中、4日間で4県を回るといって『限界に挑戦ツアー』が始まりました。

マイクを持って立っているだけで、アスファルトの熱で靴が溶けそうな徳島。

午前、午後と2回のJR徳島駅前宣伝行動と、13時からは労働局要請、合間にはテープを流しながら市内を周り、夜は学習会と、盛り沢山の1日が無事終了。

明日は香川です。

キャラバン最終日福岡から応援に駆けつけてくれたパイロットの原告、柳原さんと一緒に3名でご挨拶をさせていただきました。





JAL争議を支援するかながわ連絡会結成1周年

集会アピールを採択＝横浜市西区



8月22日、横浜市従会館に神奈川県うたごえ協議会と合唱団「フェニックス」の素晴らしい合唱「あの空へかえろう！」が響き渡った。

「JAL争議を支援するかながわ連絡会結成1周年！8・22フォーラムJAL不当解雇争議の早期解決に向けて」が幕を開けた。

バックには、パイロット原告福永の力作のスライドショーで主に神奈川県関いの様子が写しだされた。

コロナ対策と熱中症対策を充分にとり、約150名収容可能であったが、118名の参加であった。

集会は2部制で、第1部は

記念講演と特別報告、第2部はパネルディスカッション、最後にフォーラムアピールを採択して閉会となった。

第1部「記念講演」の講師は、毎日新聞記者で社会部編集委員の東海林 智氏。氏は日本航空の不当解雇撤回をめざす国民支援共闘会議の初代共同代表を務めた。演題は「新型コロナ禍の雇用情勢を考へる」で、コロナ禍で、働き方改革が進められた柔軟な雇用の矛盾点が一気に噴出した事を、数例を挙げ解説し、①雇用そのものが脅かされる状況下だからこそ、JAL争議の解決が価値あるものになる、解決が労働者、労働組合を励ます。②特に重要なのはILO勧告、世界のスタンダードを守らせる。③10年に及ぶ闘いは、労働者は引かないのだという姿勢をみせる。とこの闘いの意義を力説した。

第1部「特別報告」JAL解雇争議の勝利解決への展望」の報告者は原告団弁護団の一員の今村幸次郎弁護士。司法の場では「解雇有効」で決着したが、私たちはその蒸し返しをしているのではないこと、JALはILO158号条約・166号勧告を遵守すべきこと

とを報告し、団結して、広範な人々の支援と力を集中させ、解決を勝ち取る、今がその時と報告した。

第2部では、パネラーがこの集会の意義や、原告が会社の姿勢に納得できない理由を説明、会場からは、オール沖縄や国労争議団の「ガラスの団結」を例にとった団結することの大切さや、特別協議ではなく解雇問題に特化した団交の申し入れ、労働委員会の活用、今が正念場等の意見があった。

私達の10年の闘いを振り返り、今後の闘いに生かし、納得できる解決を勝ち取るため、今後より一層の運動の輪を広げ、活動して行くことを確信した事は言うまでもない。(JAL争議団 平井洋子)



9月15日東京地方労働組合評議会主催の争議支援総行動が終日行われ、締めくくりの17時20分～JAL本社前宣伝・要請行動に210名の参加がありました。コロナ禍の中でこのような多数の結集があったことはJAL争議の早期解決を求める声がいかに強いかが示しています。荻原東京地評議長は「JALは国連が掲げるSDGsの理念も推進しているはずだ。率先して条約を守るべき。早期全面解決を求める！」とあいさつ。山口パイロット団長は「この解雇はもの言う労働者の排除、組合潰しだった、コロナ禍で

もJALの経営陣は雇用を守ると言っている。赤坂社長は就任以来JAL争議をできるだけ早く解決したいと発言しているのだから誠意をもって実行してもらいたい。最後まで頑張る。」内田客乗団長は「職場では雇用不安が渦巻いているが、それはこの解雇争議が解決していないからだ。争議の解決無しに安全・安心なJALにはできない。全面解決めざして交渉にも取り組みにも全力でぶつかる。」と決意表明を行いました。最後はJALに対してシュプレヒコールで怒りをぶつけました。

200名を超える参加者で・9・22羽田空港アピール行動



9月22日12時〜13時、羽田空港第一ターミナル到着階の通路においてJAL国民共闘主催によるアピール行動が行われました。当日はシルバークロウの最終日、久々に多くの旅客が通行する中、200名を超える参加者（過去最高数）でアピール行動を成功させたことができました。通路にはずらっと横断幕やプラカードを持つ支援者、争議団が並び、圧巻でした。車道を超えたところにも争議団と支援団体ののびりと横断幕が並び、車で通る利用者の目を引きま



した。通行する旅行者はじつと横断幕を見た方も、チラシをもらいにきた方も、「すごいなー!」とおもわず声を上げる方もいました。密を避けるために今回は集合写真を撮りませんでした。最後に両団長が参加者一人一人に挨拶し、今後の取り組みへの参加、更なるご支援をお願いしました。

秋田の会は争議団の呼びかけをうけ9月22日に秋田駅前でアピール行動を実施しました。稲刈りや墓参と重なる難しい日取りでしたが、民主党の女性県会議員2名を含め11名が参加し、当地で作った横断幕一枚を掲げ、道行く人に争議解決への理解と協力をお願いしました。

チラシを二つ折りすると「JAL」の大きな文字が目に入り、これが功を奏したのか、いつになく受け取る歩行者が多かった印象があります。旅行キャンペーンのチラシと誤認されたのでしゅか。

初老の夫妻がチラシに目を通し、「親戚の子がJALに内定したと聞いているん

「秋田の会」 9・22秋田駅前 アピール行動



だけど、この会社、大丈夫なんですか？」と真顔でボツリ。まさか誠実そうな老夫婦に精神的ダメージを与えらるわけにも行かず、会員は返答につまづいてジタバタ・・・そんなシーンもありました。

ところで、せっかく作った横断幕ですし、チラシの残余もありますので、秋田の会はこの後も節目節目に独自のアピール行動を実施する予定です。

ご存じのとおり、私どもは迎撃ミサイル基地「イージス・アショア」の配備反対を2年半にわたって闘い抜き、つい半にわたって闘い抜き、ついこれを退治しました。今回のアピール行動への参加者はすべて反対運動を担ってきた

【10・03 新浦安駅前宣伝行動】

10月3日、12時〜13時でJR新浦安駅前宣伝行動を千葉実行委員会の主催で行われました。この宣伝行動は3年ぶりですが、約70名の参加者に集まっていたき南北の入り口に分かれて宣伝しました。新浦安駅はJALの植木会長、赤坂社長宅に近い駅。ティッシュ入りを含めて約1000枚のピラを配布し、通る人にアピールをすることができました。元JALだという女性二人が通りがかり「がんばってください!」と激励をしてくださいました。



人たちです。この久々の成功体験の教訓を争議解決運動に活かします。

(JALと争議の解決を求める秋田の会 事務局長 伊藤正通)